

## 開催趣旨

富山県は、日本イコモス国内委員会によって「日本の20世紀遺産20選」に選定された立山砂防の歴史的砂防施設群の世界遺産登録を、関係機関や民間団体等と連携協力しながら目指しています。

このシンポジウムでは、世界遺産に関わる国内外の有識者による世界遺産登録の動向や立山砂防の文化的価値と登録の意義、さらに今後求められる取組みについて講演やパネルディスカッションをとおし、立山砂防の顕著な普遍的価値を広く発信します。

## プログラム

13:30	開 会 主催者挨拶 新田 八朗 (富山県知事) 来賓挨拶 草野 慎一 氏(国土交通省水管理・国土保全局砂防部長) 大川 晃平 氏(文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室長)メッセージ代読
13:45	基調講演 「日本の世界遺産の動向 ～資産形成と推薦へのアプローチ～」 下田 一太 氏(筑波大学大学院准教授)
14:45	報 告「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」 竹内 延和 (富山県地方創生局長)
15:15	パネルディスカッション コーディネーター 西村 幸夫 氏(日本イコモス国内委員会顧問) パネリスト 松浦 晃一郎 氏(第8代ユネスコ事務局長) 下田 一太 氏(筑波大学大学院准教授) 呂 舟 氏(中国・清華大学 国家遺産センター長) 姜 東辰 氏(韓国・慶星大学校教授)
17:00	閉 会

## 出演者プロフィール



コーディネーター  
**西村 幸夫**  
(日本イコモス国内委員会顧問)  
1996年 東京大学工学部都市工学科教授  
2011年 同大学副学長  
2013年 同大学先端科学技術研究センター所長  
2016年 同大学大学院工学系研究科教授  
2018年 同大学名誉教授、神戸芸術工科大学教授  
2020年 國學院大學新学部設置準備室長  
2022年 同大学観光まちづくり学部学部長

専門は都市計画、都市保全計画など。  
国土交通省国土審議会委員、文化庁参与、同文化審議会委員、  
同文化審議会世界文化遺産特別委員会委員長などを歴任。



パネリスト  
**松浦 晃一郎**  
(第8代ユネスコ事務局長)  
1959年 外務省入省 経済協力局長、北米局長、  
外務審議官等を歴任  
1994年 駐仏大使  
1998年 世界遺産委員会議長  
1999年～2009年  
ユネスコ事務局長  
現 在 一般社団法人アフリカ協会 会長  
明日の京都 文化遺産プラットフォーム 会長  
株式会社パソナグループ特別顧問



基調講演・パネリスト  
**下田 一太**  
(筑波大学大学院准教授)  
2007年-2013年 日本国政府アンコール遺跡救済チーム  
(カンボジア)長期派遣専門家  
2013年-2016年 筑波大学芸術系助教  
2016年-2019年 文化庁記念物課世界文化遺産室文化  
財調査官  
2019年より現職  
専門は東南アジアの古代都市・建築史、歴史的建造物の  
保存工学。



パネリスト  
**呂 舟**  
(中国・清華大学 国家遺産センター長)  
中国清華大学国家遺産センター長、中国文化遺産保存  
センターの創始者。イコモスの専門家として多くの世界  
遺産の保護に携わり「ユネスコアジア太平洋文化遺産  
保全賞」や中国文化財保護プロジェクトに係る最高栄誉  
賞を獲得している。



パネリスト  
**姜 東辰**  
(韓国・慶星大学校教授)  
ソウル大学校環境大学院卒、工学博士。専門は歴史環境  
保全・都市設計。韓国イコモス委員。文化財庁文化財委員  
(2019.5～近代遺産分科、～2019.4世界遺産分科)を  
務める等、多くの韓国の世界遺産登録の作業に携わる。



### ■主催／富山県世界遺産登録推進事業実行委員会

(事務局)富山県地方創生局観光振興室世界遺産・ふるさと教育推進課、土木部砂防課、教育委員会生涯学習・文化財室

- 後援／国土交通省、文化庁、公益社団法人 砂防学会、一般社団法人 全国治水砂防協会、公益社団法人 日本地すべり学会、一般社団法人 斜面防災対策技術協会、立山・神通砂防スペシャルエンジニア、NPO法人富山県砂防ボランティア協会、富山県治水砂防協会、全国治水砂防協会立山支部、一般社団法人 富山県建設業協会、一般社団法人 斜面防災対策技術協会富山支部、公益社団法人 土木学会 土木史委員会、立山黒部自然環境保全・国際観光促進協議会、「立山・黒部」を誇りとし世界に発信する県民の会、公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防女性サロンの会、全国近代化遺産活用連絡協議会

## 概要版

世界遺産登録推進シンポジウム2023

# 立山砂防 国際 シンポジウム

— 日本固有の防災遺産 立山砂防の  
防災システムを世界遺産に —



令和5年

開催  
日時

10月21日 土

13:30 ~ 17:00

会場

富山国際会議場  
メインホール

富山県富山市大手町1-2

富山県世界遺産登録推進事業実行委員会



世界遺産登録推進シンポジウム2023「立山砂防国際シンポジウム—日本固有の防災遺産 立山の防災システムを世界遺産に—」が10月21日、富山市の富山国際会議場で開かれました。コロナ禍が収束した今年は韓国と中国からも有識者が参加し、立山砂防の国際的な価値や、世界遺産登録に向けた課題について意見を交わしました。会場参加者とオンライン参加者を含めた約500人が理解を深めました。富山県世界遺産登録推進事業実行委員会主催。

## ■ 基調講演「日本の世界遺産の動向～資産形成と推薦へのアプローチ～」

筑波大学大学院准教授 下田 一太氏

文化庁は一昨年、世界文化遺産登録を目指す物件の暫定一覧表を見直すために基本的な考えを表明しました。ユネスコ(国連教育科学文化機関)における近年の議論を踏まえて「現代という新たな時代も視野に入れつつ、自然との共生や災害に対する対応などの観点から高く評価できる文化遺産も新たな候補になりうる」としています。立山砂防はまさにこれに合致した文化遺産です。

世界遺産登録に向けて自治体が推薦書を作成する際には「顕著な普遍的価値(OUV=アウトスタンディング・ユニバーサル・バリュー)」を、6項目ある評価基準のいずれかを用いて説明しなければなりません。例えば、富士山は富士信仰と絵画などの題材として芸術に与えた影響が、基準3の「ユニークさ」と準基6の「伝統や思想などへの影響」に該当しOUVを持つとされました。立山砂防は、(1)欧州の技術と日本古来の治水技術の融合、(2)総合的な水系管理法として土木工学的に傑出した技術、(3)過酷な自然の脅威に対する人類の英知、という点で高い価値が認められますが、推薦時にはこれを改めて6項目の評価基準に照らし合わせて書き込む作業が求められます。

立山砂防は今も稼働している<sup>※</sup>生きている遺産、です。機能を維持するために交換、更新が不可欠で、保存と両立させるための論理構築が求められます。類似の国内事例としては、ル・コルビュジェ建築作品の一つとして世界遺産に登録された国立西洋美術館(東京)が挙げられます。ここでは建築のアイデアとコンセプトがOUVの骨子であるため、増築は耐震化など手が増えられても価値が損なわれることにはなりません。立山砂防も設計思想や運用方針などに価値が認められるならば改変が許容されますから、そういった砂防を支えてきた無形の考え方もしっかり整理することが重要です。



## ■ 報 告「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」

2007年に公募された世界文化遺産登録候補に「立山・黒部～防災大国日本のモデル—信仰・砂防・発電—」を提案し、暫定一覧表候補の文化資産・カテゴリー2に位置付けられました。有識者の助言をいただきながら、立山砂防に資産範囲を絞って「国際的評価の検証・確立と普及・浸透」「県民意識の醸成」「文化財指定の推進・魅力発信」を三本柱として課題解決に努め、国際シンポジウムの開催、国際防災学会などでの発表、体験学習会などの実施、明治・大正期の砂防施設の調査研究などを行ってきました。17年までに常願寺川の白岩、本宮、泥谷の3堰堤が国の重要文化財に指定され、同年に日本イコモス国内委員会が選定した日本の20世紀遺産20選では「立山砂防施設群」が3番目にリストアップされました。世界遺産登録を目指し、暫定一覧表への記載と推薦書作成を見据えて引き続き取り組んでいきます。

イコモス総会でのポスター発表



筑波大学大学院准教授 下田 一太氏

## ■ パネルディスカッション

■ コーディネーター

西村 幸夫氏(日本イコモス国内委員会顧問)

■ パネリスト

松浦 晃一郎氏(第8代ユネスコ事務局長)

呂 舟氏(中国・清華大学 国家遺産センター長)

下田 一太氏(筑波大学大学院准教授)

姜 東辰氏(韓国・慶星大学校教授)

### 世界の動きについて

西村 海外の識者をお交えながら立山砂防の価値を議論します。まず、近代の産業・土木遺産の保存について両国をはじめとする世界的な動きを紹介してもらいます。

姜 韓国における近代は1910～60年代で、戦争と国家再建のための痛みを伴った時代です。そのため当時の遺産を保存するという考えはなかなか広まりませんでした。2000年代に入って議論が盛んになり、工場や倉庫、街並みなどを保存、活用する事例が急速に増えています。朝鮮戦争で避難首都になった釜山は世界遺産登録を目指しています。構成資産9カ所のうち8カ所は日本占領期の施設ですが、100万人以上の避難民を収容した点に価値を見いだしています。19世紀以降の戦争や大量虐殺、奴隷制度、圧政への抵抗運動など人類の葛藤の記憶を伝える世界遺産は増えています。一方で立山砂防のような地域の人々を守る、人類愛を目的とした土木施設の登録も増えていくと考えています。

呂 中国でも産業・土木遺産を保護し、活用していくという動きは活発です。2010年の上海万博では古くからの造船所が、昨年の北京冬季五輪では発電所などが会場に使用されました。3千年前から銅の採掘と精錬が行われてきた黄石銅緑山(湖北省)は19世紀以降も鉄の採掘と製鉄が行われており、文化財としての保存方法が議論されました。紅旗渠(河南省)は地元民が1960年から10年がかりで山地に掘削したかんがい用水です。古来の技術を使いながら人力で工事が進められ、現在は美しい景観をつくっている点からも価値が高い代表的な土木遺産です。土木遺産の登録推進は、世界遺産における不均衡を解消する上で大きな一歩となるでしょう。

西村 2005年の世界遺産委員会のギャップレポートで、世界文化遺産には偏りがあり、土木遺産や産業遺産を増やさないといけないと言われていたのですが、立山砂防のような土木遺産の推薦、登録には、そのギャップを埋めることに貢献するという意味があります。

下田 土木遺産の価値を伝えるのは容易ではありません。かつての権力者が建造した歴史的な建造物や大規模な産業遺産に比べ、鉄道やトンネル、橋など日常的に利用して慣れている施設が多く、一見して「すごい」とは感じにくいからです。時代の変化によって技術面や社会的インパクトが持っている価値が理解され、遺産化するといった側面があることは押さえておきたいです。

松浦 教会など中世から近世にかけての西洋の宗教施設が中心だった世界遺産の多様化を目指し、ユネスコは1994年にグローバル戦略を打ち出しました。土木遺産はまだ数が少なく、立山砂防の世界遺産登録はグローバル戦略の流れの中で、日本の大きな功績になると思います。



西村 幸夫氏



松浦 晃一郎氏



下田 一太氏

### 国際的な評価について

西村 立山砂防の国際的な評価や世界遺産登録の意義について意見を聞かせてください。

姜 自然災害の克服を目指した近代土木技術の集合体で、世界的にも希少性があると思います。世界遺産に求められる「顕著な普遍的価値(OUV)」の6項目の評価基準のうち5つに合致する可能性があります。基準1の「傑作」、基準4の「科学技術の集合体」に近いと思います。1199カ所の世界遺産のうち167にしか採用されていない基準5の「人と環境とのふれあい」を代表する見本も検討できるかもしれません。下田さんが指摘したように<sup>※</sup>生きている遺産。としての価値も強調すべき点だと思います。

呂 最近10年間に登録された土木遺産の大半はOUVの基準2「重要な影響を与えた文化交流を示すもの」が基準4だが、私も立山砂防は基準5の適応も視野に入ると思います。人が自然災害にどのように立ち向かってきたのかを伝える立山砂防のような世界遺産は見当たりません。20世紀は人と自然との関係性が変わったという観点から、厳しい自然環境に立ち向った人類の力を象徴する「傑作」と言うこともできるでしょう。

下田 どの評価基準に合致するか検討する前段階として、富山の皆さんが立山砂防の何をアピールしたいのか議論を深めることが大切です。白岩、本宮、泥谷の3堰堤が構成資産として想定されていますが、世界にアピールする価値に基づいて構成資産を組み立てていくことになります。今後の検討いかんで、必要なら追加してもかまいません。さまざまな可能性がある段階だと思います。本当に伝えたいのは何かをまず考えてください。

西村 基調講演で、立山砂防は稼働資産なので、むしろ何が大事かというところを考へて、メンテナンスと関わり更新することが許容、評価されるような観点を全面に押し出せば世界に対して貢献できるという意味で有利じゃないかとの発言がありましたが、これまでにない興味深い発想だと思います。

松浦 「SABO」は国際語にもなっており、アジアの国々は日本の砂防技術を学んで洪水対策に役立てています。立山砂防の世界遺産登録によって、砂防という災害対応のあり方や、他の同じような問題に対して助言ができることになるでしょう。

### 今後の取組みについて

西村 今後どんな取り組みが必要でしょうか。

姜 自然災害に対処した類似の事例を研究することで世界的な価値をさらに強く訴えることができるでしょう。また、人に注目することで価値は明らかにできますから、立山砂防を計画した赤木正雄氏の業績や、建設に携わった地域の人々についての調査研究は行われるべきです。気候変動に備えて持続可能なシステムであるかどうかの検証は必要で、稼働資産である立山砂防ならではの価値を示すことにもつながります。

呂 価値を世界的に理解してもらうには、ストーリー性を持たせるのがよいかもしれません。物語は人の心を目覚めさせます。姜さんが提案したように、自然や災害に向き合ってきた人々の生活に焦点を当てるべきです。立山砂防は堰堤が自然に溶け込んで新しい景観を生んでいます。文化的景観としての推薦の可能性も秘めていると思います。多くの人々が共感できるようなストーリーで情報発信に努めてください。

下田 砂防の調査研究をさらに深めていくことが最も重要です。そのためにも世界遺産登録を目指す活動の中心となるチームづくりが必要です。立山砂防を愛する人や専門家がチームに参加し、登録後も遺産の有効活用に協力していくのが望ましいかたちです。

松浦 最終的には推薦書をしっかり書くことが課題になります。評価基準や構成資産をどうするのか検討するために、砂防や世界遺産、土木遺産及び砂防の専門家グループを早めにつくり、準備を始めていただきたいです。

西村 立山砂防に対する高い評価を聞き、心強い応援をいただいた思いがします。指摘された課題を一つ一つクリアしながら前に進めていっていただきたいです。



呂 舟氏



姜 東辰氏

